

ガスこんろの全口に 安全装置がつき さらに安心・便利に なりました。

- 天ぷら油過熱防止装置(調理油過熱防止装置)
 - 立ち消え安全装置
 - 消し忘れ消火機能が
全てのこんろバーナーに装備されます。

このマークの付いている機器をお求め下さい。

2008年4月1日より



Si 全口センサー搭載 センサーコンロ

『Siセンサーコンロ』の名称は、お客さまに安心(Safety)、便利(Support)、笑顔(Smile)を約束する、賢い(Intelligent)センサーを搭載したコンロという思いを込め、それぞれの頭文字である「S」と「i」を組み合わせたものです。



自主基準適合マーク

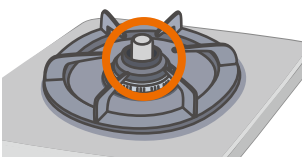
ガスこんろメーカーは、(財)日本ガス機器検査協会にて検査を行い、省令技術上の基準(案)への適合性を確認します。適合するガスこんろには、自主基準適合マークを表示します。このマークはガスこんろが法制化(平成20年10月1日予定)されるまでの期間、天板に表示します。



Siセンサーコンロの安全便利機能

標準装備される内容

安全機能 ●天ぷら油過熱防止装置 (調理油過熱防止装置)



センサーが鍋底の温度を感知し、約 250℃になると自動的に消火して油の発火を防ぎます。

安全機能 ●立ち消え安全装置



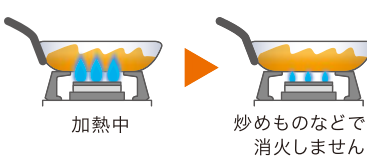
煮こぼれや吹きこぼれ、強風などで火が消えた時、自動的にガスを止めます。

安全機能 ●こんろ消し忘れ消火機能
●グリル消し忘れ消火機能



消し忘れても、点火後一定時間が経過した時点で自動消火します。

便利機能 ●早切れ防止機能



炒めものなどの場合には、鍋底が約 250℃になっても消火せずに、火力の「大」「小」を繰り返して早切れを防ぎます。

下記の安全・便利機能を装備した商品もあります


安全機能 ●焦げ付き消火機能

煮もの調理時に、焦げつきを検知すると初期段階において自動消火します。



便利機能 ●油温度調節機能

設定温度になるまで加熱した後、自動的に強火・弱火を繰り返して適温を保ち、揚げものや焼きものを上手においしく仕上げる機能です。




安全機能 ●鍋なし検知機能

鍋がのっていない状態では点火せず、使用中に鍋をはずすと自動で弱火になり、一定時間後消火します。



便利機能 ●自動炊飯機能

火加減を自動調節。炊飯専用鍋とのセットでおいしいごはんが炊けます。



便利機能 ●センサー解除機能

センサー解除ボタンを押して「センサー解除」すれば焼きもの(ぎんなんや豆のいりもの)などの高温調理ができます。

「センサー解除」中は揚げもの調理をしないでください。

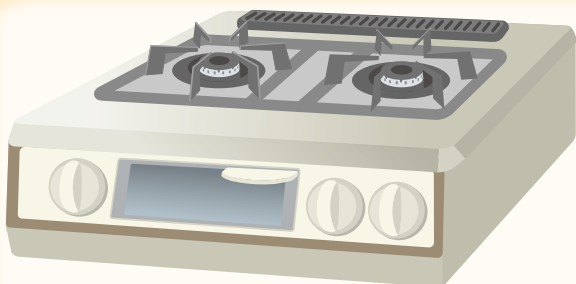
便利機能 ●湯沸かし機能

お湯が沸いたら自動的に消火します。一定時間保温したあと、自動消火するタイプもあります。



ガスこんろの事故をなくしましょう!!

天ぷら油火災の8割は「消し忘れ」等により発生しています。



「センサーなし」

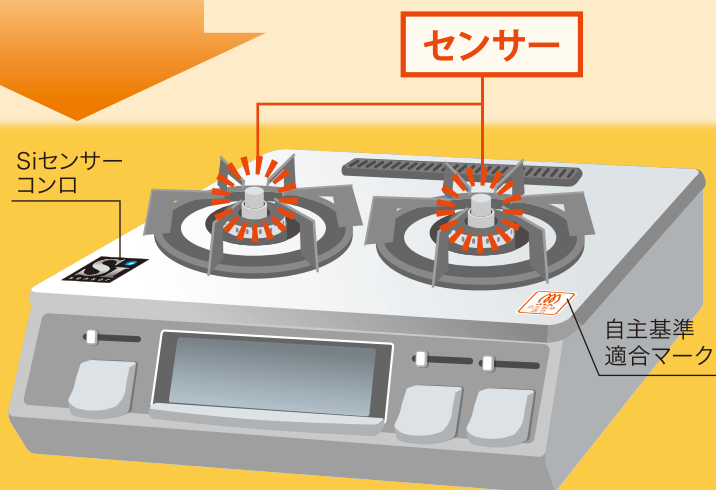
「天ぷら油過熱防止装置(センサー)」が装備されていません。使用中はその場を離れないよう注意してください。やむを得ずその場を離れる時は、必ず消火してください。



「あげルック®」(一口にセンサーが搭載されたこんろ)

あげルック®のこんろには「天ぷら油過熱防止装置(センサー)」が付いていますが、センサーが付いていない側のバーナーを使用して天ぷら油火災が発生しています。揚げもの調理は必ずセンサーが付いている側のバーナーを使ってください。

安全で便利な
Si センサーコンロ への
お取り替えを
おすすめします。



マークの貼付位置は一例です。

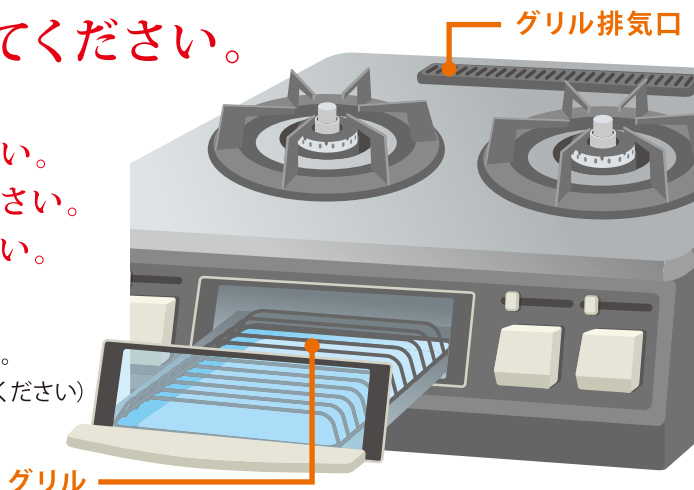
安全にご使用いただくために、必ずお守りください

グリル使用後はお手入れをしてください。

また、続けて使用する場合は、そのつど皿や焼き網にたまった脂などを取り除いてください。グリル内のお手入れは手袋をして行ってください。その際、やけどやケガには十分ご注意ください。

その他の注意

- ① グリル水受け皿にコップ1杯分(約200cc)の水を入れてください。(グリルに水を入れないタイプのグリルの場合は水を入れないでください)
- ② グリルの排気口をふさがないでください。火災や不完全燃焼を起こすおそれがあります。



安全にご使用いただくために、必ずお守りください

こんろの上や周囲に燃えやすい物を置かないでください。

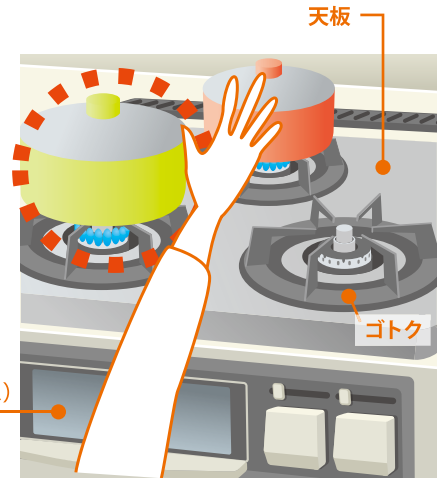
ふきん、調理用油やプラスチック製のコップや容器などを置くと引火することがあり大変危険です。



使用中、使用直後のやけどにご注意ください。

使用中または、使用直後は天板やゴトク、グリル扉（ガラス）などの高温部には触らないでください。やけどのおそれがあります。

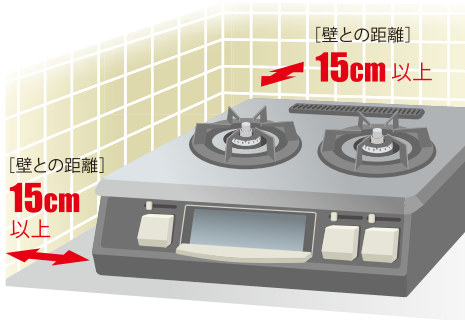
こんろの奥に手を伸ばすときは、手前の鍋のまわりやバーナーは高温になっているので注意してください。



ガスこんろと壁までの離隔距離は十分ですか？

耐火構造以外の壁付近に設置する場合、壁の表面が燃えないタイル貼りでも、壁の中の木材に熱が伝わって燃えだすおそれがあります。ガスこんろを設置する際には、必ずガスこんろと壁の距離を15cm以上離してください。こんろと壁の距離が15cm未満の場合は必ず防熱板を取り付けてください。

防熱板の購入は取扱説明書に説明しています。



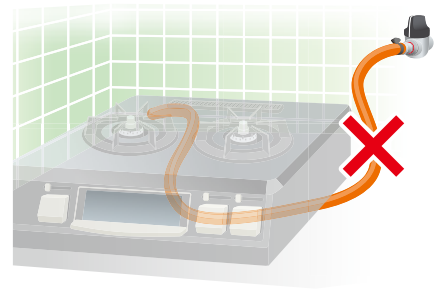
使用中は換気扇やレンジフードを回して必ず換気してください。

ガスが燃えるには新鮮な空気が必要です。



ガスこんろを買い替えるときは、ゴム管も取り替えてください。

- ① ゴム管の汚れがひどい、硬くなっているものは交換してください。
- ② ゴム管は正しく接続しないとガス漏れの原因になります。
- ③ ゴム管はこんろに接触しない長さで使用してください。長過ぎてこんろの下に引き回されていると高温のため危険です。



ご使用前に取扱説明書をよく読んで、正しく使用してください。

JGKA 社団法人 **日本ガス石油機器工業会**

ホームページアドレス <http://www.jgka.or.jp>

【後援】 経済産業省 総務省 消防庁

【協賛】 (社) 日本ガス協会 日本LPガス団体協議会
(社) 日本簡易ガス協会 キッチン・バス工業会
(財) 日本ガス機器検査協会